

# 共生の人間学セミナー 生活の思想研究会

## 花森安治の暮らしの思想と 商品テスト

報告者：西川 晃弘（大阪大学）

生活総合雑誌『暮らしの手帖』の初代編集長を務めた花森安治は、広告のない独自の誌面づくりによって活動の独立性を重視するとともに、雑誌の名前にもなっている「暮らし」という思想を通じて読者を中心としたジャーナリズムを展開したことで知られています。同誌の代名詞ともなった商品テストは、徹底した使う側の立場に基づく品質評価を通じて、戦後日本の工業製品の品質向上に間接的に寄与したとされています。しかし同時に花森は、1969年に17年間テストに取り組んできた時点での総括として掲載した記事「商品テスト入門」において、「〈商品テスト〉は、消費者のためにあるのではない」とも述べています。一見すると矛盾するこうした言動には、大量生産・大量消費による高度経済成長と、同時代における戦後の消費者運動の展開という複雑な時代背景の下に置かれていた当時の人々の、生活と商品との関係性が反映されていたのではないかと考えられます。

報告者はこれまで、科学技術と社会の関係に注目し、従来の専門家とは異なる品質評価の国内事例として、民間の商品テストに注目してきました。本報告では、花森安治の活動の一角を成す商品テストを通じて見えてくる「暮らし」の思想の一端を紹介したいと思えます。

2025年9月11日（木）15:00-16:30

大阪大学産学共創C棟4階セミナー室1＋オンライン

参加申し込み



<https://forms.office.com/r/7hRvU6JzeG>

大阪大学大学院人間科学研究科 共生学系 コミュニティ学講座 福祉と人間学分野  
大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター IMPACTオープンプロジェクト  
哲学の実験オープンラボ  
生活の思想研究会

お問い合わせ oda.kazuaki.ist@osaka-u.ac.jp（織田）